



詳細説明とデータはサステナビリティレポート2021(9月発行予定)をご参照ください。9月の発行後にリンクを更新します。2019年度実績につきましてはサステナビリティレポート2020をご覧ください。

## 基本的な考え方

JSRグループは、化学物質を取り扱う企業として、持続可能な地球環境や社会の実現に貢献することが私たちの務めと認識しています。

そのため、事業活動に伴う環境負荷低減と化学物質の適正管理を重点課題として捉え、エネルギー消費による温室効果ガス排出や廃棄物の適正管理などに努めています。特に気候変動は、将来的に自然災害の増加や環境規制によるリスクが事業に及ぼす影響が大きいと予想されます。このため温室効果ガスの排出量削減に関しては特に中長期的な経営課題として捉えて取り組んでいます。

## 環境負荷低減～マテリアルバランス～

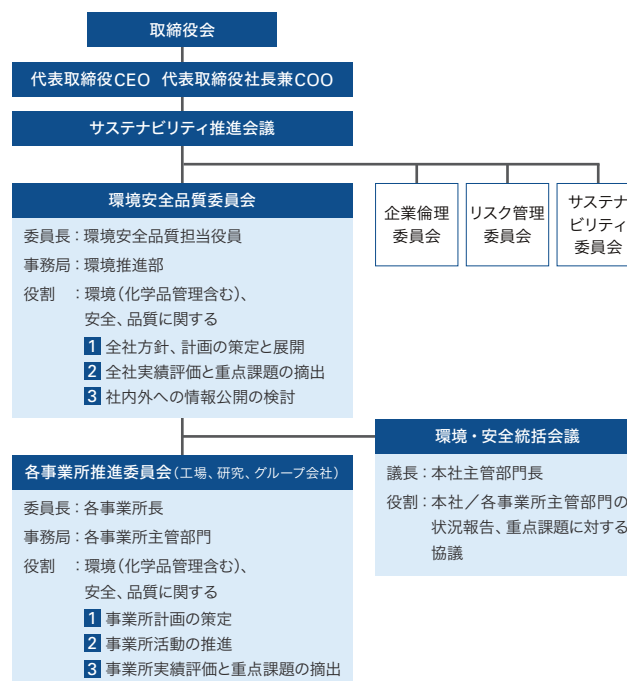
JSRグループでは、事業活動に伴うエネルギー・資源などの使用量(インプット)と製品生産量・環境への排出量、廃棄物量など(アウトプット)を定量的に把握し、精査することにより、総合的・効率的に環境負荷の低減に努めています。



## 環境に対するアプローチ

JSRグループは、経営と一体化した環境活動を推進するため、環境安全マネジメント方針の下、環境目標を策定しています。環境目標は本社環境統括部門が立案し、環境安全品質担当役員を委員長とする環境安全品質委員会で審議・承認したうえ、サステナビリティ推進会議に報告されます。目標達成に向け、各事業所環境部門が中心となって環境マネジメントシステム(ISO14001)に則り環境活動を推進しています。また、最新鋭の設備導入や技術開発など、積極的な環境対策を進めています。

### 環境マネジメントシステムの推進体制



## 各種取り組み

JSRグループは以下の取り組みを行っています。

	取り組み
気候変動緩和	気候変動問題を当社の重要課題の一つと捉え、GHG <sup>*1</sup> 排出量削減に向けた活動などに積極的に取り組んでいます。こうした中、TCFD <sup>*2</sup> の提言を低炭素経済への移行に向けた持続可能な社会の発展に資するものと考え、2020年10月に賛同しました。 また、2021年3月発表の経営方針では2050年GHG排出「実質ネットゼロ」を目指し今後も積極的に挑戦していくことを表明しました。企業活動による機会・リスクを深く理解し行動し、取り組みの積極的な開示に努めます。
水資源の保全	水資源は飲料水以外に、製造工程における原料および冷却水等に使用されています。水資源のプロセス内における循環利用等に取り組むとともに、使用後は、適切な浄化処理を施し河川などに排出しています。
廃棄物削減	廃棄物の3R (Reduce、Reuse、Recycle)等を中心に環境負荷低減に取り組んでいます。また、原料を調達し製品をつくる段階からライフサイクルを通して資源を効率的に使用するサーキュラーエコノミーを推進し、事業活動を通じて顧客や関連するSDGsにも貢献していきます。
化学品管理	世界各国で化学物質規制が強化されていますが、製品安全確保の見地から、製品の設計段階より各国の物質リスク評価の動向を踏まえた製品開発を行っています。 また既存物質に関して安全性データを伴う登録の義務化についても、事業内容に応じて現地法人との協働体制で円滑な対応をしています。

\*1 GHG: greenhouse gas (温室効果ガス)

\*2 TCFD: 金融安定理事会(FSB)によって設立された気候関連財務情報開示タスクフォースのこと。2017年6月、気候変動リスクが金融機関や企業、政府などに及ぼす影響を、財務報告において開示することを求める提言を公表した。